

いま いま
宮城は現在も現実に立ち向かう。

2017.4.11

NOW IS.

Vol.
12

毎月11日発行

ナウイズ



in
亘理

News Pick-Up

亘理町

震災当時と今の河北新報記事から見る、復興の歩み。



三つ渦巻き町のみ込む
津波襲来の瞬間

平成23年4月3日の記事では、亘理町荒浜地区の津波襲来の瞬間を報じています。掲載されたのは、町営温泉施設『わたり温泉鳥の海』の職員が撮影した3枚の写真。海岸沿いの松林から温泉施設の駐車場にゆっくりと海水が流れ込み、車を一気に押し流し、漁協や魚市場がある荒浜地区が津波の渦にのまれるわずか5分の様子を、生々しく伝わってきます。

町の約半分が津波により浸水し、沿岸部の学校や施設が一時孤立状態になった亘理町。記事には「温泉施設で孤立した38人は、2日後の13日朝、自衛隊のヘリコプターで全員が救助された」とあります。取り残された多くの人が、救助を待つ不安な時間を過ごしました。

渦巻き町のみ込んだ津波

NOW IS. / Inter-View
W A T A R I

VOICE of KEY PERSON

貴方がいれば大丈夫

01

この人がこの町を盛り上げてます！

荒浜のにぎわい創出と子どもたちに楽しい海の思い出を。

何かしたい、でも何を？ 支援のかたちを模索

「荒浜ロックフェスの『ロック』には、『前に進み続ける力強さ』や『このまちを必ず復活させる強い意志と固い決意』という意味が込められています」と話すのは、荒浜ロックフェスを企画したNPO団体スタンドアップ亘理の代表である加藤正純さん。

「『エロ口になって子どもたちに笑顔を届ける活動や被災した田んぼの生態調査など、さまざまな支援の形があることを知り、『何をやっていいんだ』と心のわだかまりがなくなりました。仲間とともに、無料の映画鑑賞や、花火イベントなどを開催し、本格的に活動を続けたいと決心。動いていた会社を退職し、平成26年3月に『スタンドアップ亘理』を立ち上げました。」

平成27年から毎年夏に開催している荒浜ロックフェスは、亘理町に住んでいる人や、亘理町を応援したい人の交流を通して、地域を盛り上げ、子どもたちにも地域の魅力を感じてもらおうことが目的です。

加藤さんは、自宅や家族に被害はありませんでしたが、生まれ育った亘理町のために「何かしたい」と思いつくようになりました。しかし、自分に何ができるのかと自問自答を繰り返す日々でした。

そんな時、隣の山元町で復興支援や地域のネットワークづくりに取り組んでいる中学校の恩師、渡邊修次さんと再会。渡邊さんの誘いで活動を見学しに行く

「子供のころ、楽しい思い出は海とともにありました。今の子どもたちにも体感してもらいたいんです。いずれ海水浴場が再開したら、ビーチで開催するのが夢ですね」と話してくださいます。

「子供のころ、楽しい思い出は海とともにありました。今の子どもたちにも体感してもらいたいんです。いずれ海水浴場が再開したら、ビーチで開催するのが夢ですね」と話してくださいます。



NPO 団体
スタンドアップ亘理 代表
加藤 正純 さん
080-6044-0296



平成28年7月30日開催の「荒浜ロックフェス」

平成26年7月に開催した「線香花火ナイト」



メガソーラーで復興を後押し

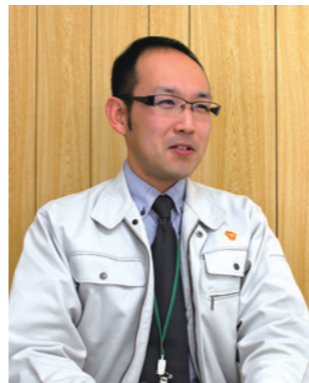
津波被害を受けた亘理町吉田東部地区に建設が進む、東北最大級の大規模太陽光発電施設（メガソーラー）。平成28年12月22日の記事では、13日に行われた建設工事安全祈願祭の記事が掲載されました。

建設地の約75ヘクタールは、防災集団移転促進事業で町が取得した宅地や、転用した被災農地を集約し、土地の有効活用を図ります。年間発電量は一般家庭約1万9,000世帯の消費電力に相当する7,000キロワット時を見込んでいます。運転開始は平成30年春を予定。事業関係者は「地元経済や地域環境への貢献を通じ、震災復興の一助になりたい」と、整備を進めています。



©河北新報社 ※記事の詳細はみやぎ復興情報ポータルサイトに掲載します。

NOW IS WATARI NOW IS WATARI NOW IS WATARI NOW IS WATARI



亘理町役場
復興まちづくり課
加藤 祐希 さん
平成27年4月から
愛知県岡崎市より亘理町へ派遣



下茨田橋の架け替え工事をチェックする加藤さん

吉田地区の防災公園

心がけていることは、住民の方々とのつながり

「岡崎市では、平成24年度から亘理町と山元町に派遣が始まりました。自分のこれまでの経験をいかし、役に立てればと思いをこめて話しました」と話す加藤さんは、平成27年に派遣職員として愛知県岡崎市より亘理町にやってきました。吉田地区の防災公園や防災広場などの整備を行っています。

「工事の説明で住民の方と話をしたとき、派遣と聞くと皆さんがあなたかと言葉をかけてくださるんです。震災当初、岡崎市では消防本部が愛知県緊急消防援助隊として亘理町での救援活動を行っていました。当時、岡崎市の消防隊には世話になった」とお礼を言われることもあります。「自分もできる限り要望に応えていきたいと思いましたが」。

住民の皆さんとのつながりを大切にしようと、現場で近所の方がいいたら声をかけるようにしている加藤さん。震災当時の話を聞くこともあり、一刻も

早く仕事を進めなければと、身を引き締めながら業務を進めています。

「愛知県岡崎市で生まれ育ったので、他の土地に住んだのは亘理町が初めてです。人もあたたかいし、はらこめしほっきめし、いちごなど、おいしいものもたくさんです。亘理町が大好きになりました」。派遣を機に、岡崎市の職員や友人が来てくれることもあり、「観光の面でも亘理町を紹介していきたいと思っています」。

「愛知県は、南海トラフ地震による被害が懸念されています。今後は、岡崎市の職員と情報を共有し、防災・減災に備えたいです」。亘理町と岡崎市は平成29年1月に災害時相互応援に関する協定を締結。「平和と安全への思いをより強固に、これからずっと亘理町との関係は続いていきます。私自身、亘理町は第2の故郷と思っています。有事の際は第一線で活躍できるよう努めていきたいと思っています」。

亘理町は第二の故郷。相互に助け合っていきたい。

VOICE of KEY PERSON
貴方がいれば大丈夫

02

この人がこの町を盛り上げてます！

AR 定点観測

Look at Miyagi

撮影地 亘理町 荒浜

宮城県南部、太平洋沿岸に位置する亘理町。津波により町の面積の47%が浸水し、沿岸部が甚大な被害を受けました。撮影場所である荒浜中学校も1階部分が浸水し、全壊状態となりました。荒浜中学校は平成26年、新校舎が再建。1階部分が柱のみの津波災害に強い建物で、震災の教訓を踏まえた造りになっています。



震災前の荒浜中学校



被災直後の荒浜中学校
無料アプリ「ココアル2」を起動し、上記の被災直後の写真にかざすと、現在の亘理町荒浜中学校の様子がご覧いただけます。



COCOAR2のダウンロードは「Google play」「App Store」から
COCOAR2に対応していない端末もごさいます。

(写真提供：荒浜中学校)

無料アプリ「ココアル2」をダウンロードしてご覧ください。

明日への取り組み

住民とボランティアをつなぐ新たな支援の仕組みづくり
(NPO法人 Cloud JAPAN)



女性の働く場や地域交流の場としても活用したいと、絵本カフェを設け、女性スタッフは子連れで出勤し運営しています。



「ゲストハウス架け橋」の2号館。居間や13人分の宿泊室、風呂、トイレを半年かけてリニューアル。

地域の人もボランティアも、家族として集まるゲストハウス

子どもたちの元気いっぴいの声が響く、気仙沼の一軒家。ここでは、NPO法人「Cloud JAPAN」が運営する「ゲストハウス架け橋」です。

誰もが宿泊できるゲストハウスで、昼は小さな子どもたちを連れてお母さんたちが集う絵本カフェ、そして夜は地元の人と宿泊客が酒を酌み交わす居酒屋としても活用されています。

「Cloud JAPAN」代表理事の田中惇敏さんは、震災後の2012年、九州からボランティアでやってきました。そこで感じたのは「時間はあるけどお金がない」学生ボランティアが、格安で宿泊できる場所があれば、長期で滞在できる」ということ。そこで地元のお寺の住職に相談し、檀家さんの空き家を借りることに。こうして「ゲストハウス架け橋」の1号館が平成25年にできました。

全国の学生ボランティアの利用が増え、平成27年に2号館をオープン。現在は、3号館、4号館、5号館までオープンする予定。借りたすべての空き家は、自分たちの手で改修します。九州大学（現在休学中）で建築

を学ぶ田中さんが設計図を引き、電気配線もボランティアの手によるもの。上下水道以外の工事をすべて自分たちで行っています。



居間は誰でも利用でき、ランチは子連れママでにぎわう。100冊以上の絵本も置いてある。

「ゲストハウス架け橋」が目指すのは、ボランティアでやってきた人たちが気仙沼に移住するようになること。地元の人たちと触れ合い、この場所を好きになって戻ってきてほしい。これまで受け入れた2,000人超のボランティアのうち、10名が移住者となり、5号館は移住者向けのシェアハウスになる予定です。ゲストハウスは気仙沼と外の人々を結ぶ、かけがえのない「架け橋」です。

（この取組は、みやぎ地域復興支援助成金を活用しています。）

http://www.kakehashi0311.com/

STAFF'S VOICE 取材こぼれ話

編集後記

ゆうたろうさんの言葉で印象的だったのは「話を聞いてはじめて生産者さんの想いが伝わった」と言っていたことです。

今回訪れた「いちごランドこうちゃん

園」をはじめ、若手いちご農家が集まる「亘理おらほのいちご生産組合」は、亘理町のブランドいちご「おらほのいちご」を販売しています。東京都や横浜市のスーパーに卸すなど、宮城県以外に

も販路を拡大しています。1粒1粒に想いを込めて作ったいちごを、味わってください。



ハウスの中はいちごの甘い香りが広がっています。

宮城県の東日本大震災死者数(関連死含む) 10,558人 | 行方不明者数 1,232人 | 平成29年2月28日現在 宮城県危機対策課調べ

TOPICS 3

NOW IS / NEWS in MIYAGI

復興や防災にまつわるニュースをお知らせします。

【対象】
災害公営住宅等に設立された自治会等の住民団体など

【対象事業】
①地域コミュニティ再生支援事業補助金
(地域住民で組織する団体が行う、地域コミュニティ再生活動に対して、その経費の一部を補助)
②地域力再生活動アドバイザー事業
③被災地域リーダー等研修・交流事業

【募集時期】
平成29年5月、6月、8月、10月

☎ 県地域復興支援課
☎ 022-211-2424
http://www.pref.miyagi.jp/site/hukkousien/komyu.html

NEWS

02

地域コミュニティ再生支援事業 平成29年度事業の募集

県では、被災地における住民主体のコミュニティ再生に向けた活動を支援します。

【対象世帯】
被災当時生活の本拠としていた住宅が震災により被害を受けた世帯であつて、以下のいずれかに該当する世帯。

- (1)「全壊」のり災証明を受けた世帯
- (2)「大規模半壊」のり災証明を受けた世帯
- (3)「半壊」「大規模半壊」のり災証明を受け、その住宅を倒壊のおそれなどやむを得ない理由で解体した世帯、または、敷地被害を市町村が認めた世帯で、その住宅を倒壊の恐れなどやむを得ない理由で解体した世帯
- (4) 長期避難世帯に認定された世帯

【支給額】以下の①②の合計額が支給されます。

①基礎支援金 (住宅の被害程度に応じて申請)		②加算支援金 (住宅再建の方法に応じて申請)	
住宅の被害の程度	支給額	住宅の再建方法	支給額
全壊世帯	100万円	建設(新築)・購入	200万円
解体世帯		補修	100万円
長期避難世帯	50万円	借借(公営住宅を除く)	50万円
大規模半壊世帯			

※①、②とも、被災当時の世帯の人数が一人だった場合には、支給額が4分の3になります。申請先、申請に必要な書類等については、被災当時お住まいの市町村の担当課又は下記までお問い合わせ下さい。

☎ 県消防課 ☎ 022-211-2372
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/syoubou/sienkin-top.html

NEWS

01

被災者生活 再建支援制度について

東日本大震災により住宅が全壊するなど、生活基盤に著しい被害を受けた世帯に、支援金を支給しています。申請期限は平成30年4月10日までとなっておりますので、お早めの申請をお願いします。

NEWS

03

亘理町の観光いちご園でいちご狩りを開催中

「東北一のいちご産地」の復活を目指し、平成25年度にいちごの栽培復活を果たした亘理町では、町内2カ所の観光いちご園でいちご狩り体験ができます。甘くみずみずしいいちごを現地で味わってください。

- JAみやぎ亘理吉田観光いちご園
品種/とちおとめ
日時/5月下旬まで10時~16時(最終入園15時半)
休み/毎週月曜日
場所/宮城県亘理郡亘理町長瀬字稲荷前45-10
料金/5月7日(日)まで一般1,500円、
4歳~小学3年生700円、
5月8日(月)以降一般1,300円、
4歳~小学3年生600円
☎0223-34-9471
- いちごランドこうちゃん園
品種/もういっこ
日時/5月下旬まで
9時~15時(最終入園14時半)
休み/不定休(火・水は定休日)
場所/宮城県亘理郡亘理町長瀬字西谷地116
料金/5月7日(日)まで一般1,500円、
4歳~小学3年生700円、
5月8日(月)以降
一般1,300円、4歳~小学3年生600円
☎0223-34-4571

NEWS

04

「亘理・桜十選」展開催 亘理町の桜の名所を紹介

亘理町では、住民自治組織「まちづくり協議会」が町内5地区で地域協働のまちづくりを進めています。そのうち、亘理地区まちづくり協議会が昨年発行した「亘理・桜十選」に掲載した桜の写真や詩歌を展示します。津波被害を受けたながらも咲き続ける桜などの名所を巡りに、ぜひ亘理町にお越しください。

日時/「亘理桜十選展」4月1日(土)~27日(木)
場所/悠里館ギャラリー(JR亘理駅連絡通路内)
☎ 亘理地区まちづくり協議会
☎ 0223-34-8583

NOW IS / MIYAGI

MEDIA INFORMATION

今の被災地をリアルタイムで

SNSでは、取材チームが見た被災地のいまを発信しています。Facebook、Instagram、Twitterをご覧ください。皆さまからの投稿もお待ちしております。ハッシュタグ「#fukkomiymiyagi」をつけて、撮影した画像をお寄せください。



荒浜港(亘理町) [2017/3/1]

各SNSの検索窓で

復興情報をお伝えします

宮城の復興情報を発信する、「みやぎ復興情報ポータルサイト」を公開しています。復興に関するお知らせや復興の進捗状況、NOW IS取材チームによるブログで情報を発信します。



みやぎ復興情報ポータルサイト <http://www.fukkomiymiyagi.jp>

TOPICS 3

TOPICS 3

NOW IS.

防災

もしものときにあなたを守る、
防災のヒントを、
12回にわたって紹介します。

Theme 12 まとめ

11回にわたり紹介してきた、防災のヒント。
災害は、いつ、どこで、どのように起こるか分かりません。
災害に備え、被災した時はそれを乗り越え、教訓を生かしていくために一。
一人ひとりが考え、できることに取り組みましょう。

備える



年2回は見直したい！ 防災グッズや食料備蓄

災害によって備えは異なりますが、最低限必要なのは非常持出袋と食料備蓄。季節や個人の状況によっても必要なものは変わるので、年2回は見直して、薬を追加したり、賞味期限をチェックしたりしましょう。

乗り越える



一人で抱え込まず、 周囲に助けを求めよう！

災害時には、一人ではどうしても乗り越えられないことが出てくるもの。助けが必要な時は遠慮なく求めましょう。つらい体験も、周囲に話して理解を得ることで、少し気持ちが楽になることもあります。

生かす



相手に役立つ情報を、 整理して伝えていこう！

災害の種類や場所、日時によって対応は異なります。災害教訓を伝える時は、他の地域で起こる様々な災害にも役立つ備えや避難方法を伝えましょう。防災ハンドブックを使うなど、伝え方を工夫することも大切です。

取材協力：東北大学災害科学国際研究所 今村 文彦 教授

防災コラム Vol.12

- ★“知る”をはじめよう！
- ★災害をイメージして備える！
- ★簡単なことほど、後回しにしない！

災害は何度も起こります。まずは自分の地域の歴史・地形を知る、危険性を知ることからはじめましょう。その上で、起こりうる災害をイメージして備えることが大切です。また、家族の防災会議で家具の固定などを確認していますか？簡単な備えほど後回しにしてしまいがちです。“いつでもできるから”ではなく、“今すぐできる”ことから始めましょう！

東北大学災害科学国際研究所
今村文彦教授



災害リスク研究部門津波工学研究分野に所属。津波被害の軽減を目指し、数多くの研究を行う。東日本大震災復興構想会議検討部会などのメンバーとしても活動。